

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	令和3年7月4日	評価結果市町提出日	令和3年10月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoSyCd=2470600368-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoSyCd=2470600368-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3年 8月 6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、開設時の思いを大切にこれからもお役に立てるよう頑張りたいと考えています。温かいグループホームを目標に認知症の理解を深め、職員の資質向上を図りたいと思っています。また、緑に囲まれた環境のもとゆっくりと過ごしていただけるように取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺はかざはやの里と呼ばれ、法人が自然の池や森林を利用して障がい者施設の利用者と共に四季折々の花を咲かせ、年間を通して多くの人々が訪れる花園となっている。ひまわりの利用者は、天候のいい日には馴染みの周辺を散歩して花々を楽しんでいる。『和顔愛語』笑顔と笑顔でつながる心を理念とし、職員の笑顔と優しい言葉がけで利用者の安心・安定を守っていきこうと考えて支援している。今年度はコロナ禍で例年通りの行事や外出支援ができなかったが、利用者の思いに耳を傾け、今できる日々の楽しみを見つけて利用者の笑顔に結び付けていきこうとする職員の取り組みが伺える事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和顔愛語の意味を理解し、利用者様の支援に努めて参ります。	『和顔愛語』の意味を職員全員が理解し実践につなげていくよう、事務所や各階に掲示したり、フロア会議で確認し合っている。新しく入った職員のオリエンテーションでは特に時間をかけて理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで交流が出来ませんが、災害時に協力体制をお願いしています。	コロナ禍で地域との交流はできなかったが、地域の集会所で開催している運営推進会議には、地域の役員が参加し協力体制はとれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの運営や介護保険制度、災害時の協力について意見交換をしています。	法人併設のグループホーム事業所と合同で、地域の集会所で年6回開催している。事業所の運営について報告し、参加者から率直な意見をもらいサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族様の中に連絡がつかない方があり、相談に応じてもらっています。	日頃から制度の改正などで不明な点があれば直ぐに連絡を取り相談している。生活保護の利用者を受け入れていることで相談事も多い。音信不通の家族について相談し解決につながった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、テキストによる研修を行っています。	3か月毎にテーマを変えて身体拘束をしないケアについて職員の研修を行っている。現在1名の利用者について家族の了解の下、車いす拘束ベルトを使用しているが、職員間で廃止に向けて検討している。	身体拘束廃止に向けての指針を作成し、それに基づいて適正委員会や職員研修を実施し、記録をきちんと整備・保存されることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、研修を行い取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など、知識習得に取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書により説明をします。入所後ご質問があれば説明をさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接お話を聞いたり電話連絡時にお話を伺うなど気軽に話し合いが出来るようにしています。得た情報をもとに職員間で相談をしサービスの向上に努めています。	家族が利用料・オムツ等・薬などを届ける際に、できるだけ話をする機会を持つようしている。家族の意見や要望等にも職員間で話し合い、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議、申し送り時に意見交換をしております。できることはすぐに取り組んでいます。	フロア会議や申し送り時に意見を出し合い、改善できることは積極的に取り組んでいる。個人面談を年2回実施し、個人の意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の雰囲気大切にしています。楽しく働けるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を取ることも大切ですが、毎日の仕事の中で創意工夫をすることでレベルが上がっていくと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスで他施設との交流がなかなか難しいですが、電話などで情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で利用者様とコミュニケーションを図るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とコミュニケーションをとり要望などを聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況を確認しながら適切に対応を取るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに信頼関係が保てるよう努めています。コミュニケーションをとりながら一方的にならないよう気を付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入り、状況を説明し良い関係が保たれるよう取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は大切であるので、交流ができるよう取り組んでいきたい。	コロナ禍で例年通りの馴染みの人や場との関係継続は困難であったが、一部の利用者は家族とリモート面会をすることができた。新聞広告やチラシなどを見ながら職員・利用者が楽しく会話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って利用者様同士がうまくいくよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談事があれば支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から意向を把握し、職員間で相談しながら取り組んでいます。	殆どの利用者と意思疎通はできるので、やりたいことや食べたいものを聞いて、できる限り実現できるように支援している。意思疎通が困難な利用者については表情などから読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を把握し、職員間で相談しながら取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日接している中で現状を確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護度が変わったり、状態の変化があるのでその都度話し合いをしています。計画作成担当を中心にモニタリングをしケアの統一に努めている。	家族の意向は電話や訪問時に確認し、毎月担当の職員がモニタリングしたものを3か月毎にケアマネジャーが評価して、医師の意見を加味し見直しをしている。体調の変化に合わせて本人の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援をした事について記録を残すことは振り返りやどうなったかを確認するために必要である。今後の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズはその時の状況によって変化していきますので対応が難しかったりします。できることは取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を収集し必要時に活用できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ医とは入所されても引き続き適切な医療が受けられるよう関係を持ってもらおうようにしています。	利用者の約半数が協力医に診てもらっているが、その他は以前からのかかりつけ医を継続して家族が受診の対応をしている。協力医もかかりつけ医も24時間対応が可能で、家族の安心につながっている。訪問歯科も必要に応じて利用が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師と連携し対応している。看護師の採用をしたいと考えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーとその都度連絡を取っています。家族様とも情報交換しながら入退院の支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときは主治医に相談して指示をいただくことにしています。延命治療については家族様の意向に寄り添う対応をしています。	立ち上げ当初から看取りはしていない。重度化した時点で家族や医師に相談し、利用者にとって適切な施設や病院に移ってもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さんの急変、事故発生時には状況を確認し主治医に連絡、又は救急要請をするなど対応にあたっている。AEDの設置、急変時のマニュアル作成をし取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつ起きるかわからないので水、非常食を準備しました。避難方法や救援依頼、公的機関、家族様への連絡など職員で確認を取っています。	今年度は、10月・5月に地震による火災を想定した避難訓練を実施、消防署立ち合いで消火訓練やAEDの使用について講習を受けた。今後は自家発電装置の購入を検討している。また、水・乾パン類・レトルト食品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する、プライバシーを大切にす る。どんな時も優しい言葉かけをする。職員 で確認をしています。	利用者一人ひとりの思いを大切にし、安易な 言葉がけで傷つけることがないように支援し ている。特にトイレ誘導の声掛けには配慮し ている。利用者同士の関係性についても気を 配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者様が気持ちを表してもらえような声 掛け、意思を尊重するように職員間で取り 組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを崩すことのないよ う気を付けています。違うことをする時は説 明をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	気に入った服を着てもらい、着替え時に洗濯 をしていただくなど、いつも清潔な服装をし ていただくように取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事は楽しみながら食べていただくように演 歌や音楽を流したりしています。配膳、下膳 ができる方にははしていただいている。	契約している業者から献立・レシピ・食材が届き、 各階の職員が調理している。行事食は利用者の 希望を聞いて特別なオリジナルメニューを作るな ど職員が工夫している。時々はおやつ作りもみん なで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	日々の食事は業者に依頼してありメニュー も決められています。調理をするときに個々 に応じた食べやすい形態、塩分糖分を控え めにして出ささせていただくようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	口の中を清潔にすることは肺炎予防になる ので清潔にしてもらうよう取り組んでいま す。入れ歯調整など訪問歯科に来ていただ いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個室にトイレがあるので、声かけ誘導しトイレでしてもらうように取り組んでいる。必要な方はリハパン、パットなど使用していただき自立につながるよう取り組んでいる。	排泄の個人差は大きいですが、自立している人を除き排泄パターンに基づいて定期的に声掛けをしてトイレ誘導している。居室にトイレがあるため、基本的には居室のトイレを使用しているが、職員は必ずチェックをするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食事や水分補給を確りとってもらっています。かかりつけ医に相談し便秘薬をもらっています。毎日排便チェックをしています。状態によりますが、便秘薬を定期的に飲んでもらったりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っています。なかなか入浴してもらえない方も見えますので、個人の希望に合わせてながら入浴をしてもらうよう工夫しています。	週3回、午後から一人ひとり湯を新しく入れ替えて入浴支援している。入浴は疲れるから入らないと拒否されることもあるが、いろいろと声掛けを工夫しながら誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んでいただけるよう、寝具・照明・室温調整に配慮しています。寝られないときはフロアに出てきてもらい話し相手となり見守っています。寝具は毎週日曜日交換しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	他の方と薬の飲み間違いのないように、飲む前に名前と日にちを声を出して確認しております。手に渡してもこぼされる方がいるため完全に飲みを得るまで確認をしています。薬の内容について薬情で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、誕生会を行い生活に楽しみが持てるよう取り組んでいます。個人的には新聞をみたりパズルゲームをもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、外食など外出支援している。家族様と出掛けたりしていただいている。	コロナ禍で例年通りの外出支援はできないが、少しでも外気浴してもらえるように職員がごみ捨てに誘ったり、法人が管理する公園まで散歩して花見をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームのなかでお金を使うという事がないので、消耗品代、病院受診時にいくら支払ったなどの説明をしてお金の大切を感じてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援、電話連絡など自由にしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適に過ごせるように整理整頓、掃除、音や光、湿度、温度に気を付けています。	2・3・4階と3ユニットに分かれている。リビングの壁面には手作りの貼り絵の作品が飾られていたり、それぞれのユニットのカラーがあり温かな雰囲気漂っている。利用者は空調が整備された快適な空間で穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの居場所は確保しています。みんなで過ごす場所も居心地の良いよう取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には仏壇、カレンダー、家族の写真、自分が使っていた物がおいてあります。居心地よく生活できるように家族様の協力のもと取り組んでいます。	コロナ禍で居室を実際には確認できなかったが、部屋にはベット・トイレ・洗面台が設備されプライバシーは守られている。家族の写真や作品を飾り、使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーは歩行していても段差もなく安全な環境になっている。移動時、下肢筋力低下がある方はシルバーカー、車椅子、杖を使用してもらい安全を取っています。		